

# アスベスト被害のない被災地の復興を

## これからのアスベスト対策を考える集いin いわき



【南相馬市小高区の仮置き場での調査活動(2013年11月)】

期 日 **10月10日(金)**

開場18:00 開始18:30 終了予定20:30

会 場 **いわき市労働福祉会館3階  
大会議室1**

いわき市平字堂ノ前2 2 電話0246-24-2511

参加費 **無 料**

東日本大震災により大量の災害廃棄物等のがれきが福島県内に発生しました(環境省推計455万トン)。東京電力福島第一原発事故の影響でがれきの処理が遅れ、避難地域を除く県内のがれき処理量は311万トン(2014年3月末)になっています。

アスベスト(石綿)は発がん物質です。アスベストを吸うと30年~40年の潜伏期間をへて、中皮腫や肺がんなどの健康障害を発生させるおそれがあります。がれきにはアスベスト(石綿)が含まれています。

これまでアスベストは、耐火性、断熱性、保温性、防音性にすぐれた性質を利用して、建築資材、工業製品、生活用品などに使われてきました。例えば、建物の耐火防火被覆用の吹き付け、波型スレート、フレキシブルボード、セメント板、屋根材、外壁材、Pタイルなどに、また自動車のブレーキ、配管の保温材、断熱材、パイプのジョイントシート、接着剤、タルク(不純物として含有)などに使われてきました。

被災地では、がれきの処理、建物を解体・改修する際にアスベスト粉じんが飛散し、労働者や住民が気づかぬうちに吸い込む危険性があります。

アスベスト被害のない被災地の復興を進めるために、ともに考え行動していきたいと思えます。ぜひご参加ください。

### 〈第1部〉

講演1「アスベストによる健康障害と補償・救済」

講師:平野敏夫(東京労働安全衛生センター代表理事、医師)

講演2「被災地のアスベスト対策の現状と課題」

講師:外山尚紀(東京労働安全衛生センター、労働衛生コンサルタント)

### 〈第2部〉

体験ワークショップ

試してみよう!アスベストから身を守る防じんマスクの着け方  
チェックしよう!アスベスト含有建材の見分け方

主催:特定非営利活動法人東京労働安全衛生センター

東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル5F TEL 03-3683-9765 FAX 03-3683-9766  
center@toshc.org <http://www.toshc.org>

協力:中皮腫・じん肺・アスベストセンター